



SBI 損保

がん保険の新コアシステム

ガイドワイヤ社の保険アプリを導入

SBI損保とガイドワイヤソフトウエア ジャパン(株)は11月7日、SBI損保が8月に販売開始した「SBI損保のがん保険(自由診療タイプ)」のための新コアシステムとしてガイドワイヤの保険アプリ「ケイワイア」を導入し、「Insurance Suite」を導入し、本格稼働を開始したと発表された。国内損保会社によるInsurance Suiteの導入は、今回が初めて。

SBI損保は、同社のがん保険について、柔軟性や機動性の低い従来の基幹システムではなく、全く新しいコアシステムを構築することを決めた。新システムには、業務を進める上で必要とされる機能がすべて網羅されていると同時に、

「コンパクトなシステム」

かつ「コンパクトな運用体制」という同社の情報システム方針に沿った高い柔軟性と拡張性を実現するシステム・アーキテクチャが必要であり、この要件を満たす複数のシステムを比較、評価した結果、ガイドワイヤのInsurance Suiteの導入を決定した。

SBI損保の藤岡和之輔取締役は、「当社は設立当初より、顧客中心主義のビジョンを掲げ、お客様にWebサービスの利点を生かした高品質のサービスを、どこよりも安い保険料で提供することを追求してきた。ガイドワイヤの製品に對するビジョンは、当社とそれと非常にマッチしている。ガイドワイヤは、最終

的には我々自身での運用実現を前提として、完成度の高いプラットフォームとコンサルティングサービスを提供してくれた。その結果、当社が求める品質、機動性、コスト効率性のすべてにおいて非常に優れたシステムの構築が実現できた」と述べている。

SBI損保がGuidewire Insurance Suiteの導入を決めた主なポイントは、①高い柔軟性と拡張性を実現したシステム・アーキテクチャ、②業界に特化の充実した機能とコスト効率性の高いソリューション、③自社内でシステム要件や更新が実現することによる機動性の確保。今回の新コアシステム選定は、がん保険のみではなく他のビジネスラインへの展開も可能にするシステム構造の実現を視野に入れて行った。

本年2月からスタートした導入プロジェクトは、両社の専任チームのほかに、(株)B-Prostが参加して行われた。Guidewire Insurance Suiteを構成する3つのコンポーネントのうち、Guidewire Policy Center[®](引受業務、契約管理業務支援システム)とGuidewire Billing Center[®](請求管理支援システム)が、ガイドワイヤとしても最短記録となる6ヵ月という短期間で第1弾が終了した。また、Guidewire Claim Center[®](損害サービス管理支援)も11月に本格稼働開始となり、全導入プロジェクトが9ヵ月という短期間で完了した。

導入プロジェクトについて藤岡氏は、「アジャイル手法でのプロジェクト遂行は、当社にとって初めての経験であり、途中戸惑うこともあったが、両社のチーム同士で緊密に連携し、話し合うことで問題点や疑問点を解決してきた。ガイドワイヤのチームは高い技術力を持つだけでなく、日本特有の損害保険ビジネスについてもよく理解しており、大きな問題が発生することなくプロジェクトを進めることができた。今回は短期間で完了させなければならぬプロジェクトだったが、予定期間内かつ予算内で無事終えることができた」とコメントしている。

また、ガイドワイヤソフトウエア社アジアパシフィック地域担当バイスプレジデントのイアン・タバナ1氏は、「SBI損保は、最適なサービスをお客様へ提供するために積極的なシステムを取り入れている。当社は、高い品質とコスト削減を実現するGuidewire Insurance SuiteによりSBI損保が一層のビジネスの拡大を実現するお手伝いができることを喜ばしく思う」と述べている。